

2015年1月1日新年礼拝

新しい歩みを

加藤 享

[聖書] マタイによる福音書 25章 14~30節

「天の国はまた次のようにたとえられる。ある人が旅行に出かけるとき、僕たちを呼んで、自分の財産を預けた。それぞれの力に応じて、一人には五タラント、一人には二タラント、もう一人には一タラントを預けて旅に出かけた。早速、五タラント預かった者は出て行き、それで商売をして、ほかに五タラントをもうけた。同じように、二タラント預かった者も、ほかに二タラントをもうけた。しかし、一タラント預かった者は、出て行って穴を掘り、主人の金を隠しておいた。

さて、かなり日がたってから、僕たちの主人が帰って来て、彼らと清算を始めた。まず、五タラント預かった者が進み出て、ほかの五タラントを差し出して言った。『御主人様、五タラントお預けになりましたが、御覧ください。ほかに五タラントもうけました。』主人は言った。『忠実な良い僕だ。よくやった。お前は少しのものに忠実であったから、多くのものを管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ。』次に、二タラント預かった者も進み出て言った。『御主人様、二タラントお預けになりましたが、御覧ください。ほかに二タラントもうけました。』主人は言った。『忠実な良い僕だ。よくやった。お前は少しのものに忠実であったから、多くのものを管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ。』ところで、一タラント預かった者も進み出て言った。『御主人様、あなたは蒔かない所から刈り取り、散らさない所からかき集められる厳しい方だと知っていましたので、恐ろしくなり、出かけて行って、あなたのタラントを地の中に隠して／おきました。御覧ください。これがあなたのお金です。』主人は答えた。『怠け者の悪い僕だ。わたしが蒔かない所から刈り取り、散らさない所からかき集めることを知っていたのか。それなら、わたしの金を銀行に入れておくべきであった。そうしておけば、帰って来たとき、利息付きで返してもらえたのに。さあ、そのタラントをこの男から取り上げて、十タラント持っている者に与えよ。だれでも持っている人は更に与えられて豊かになるが、持っていない人は持っているものまでも取り上げられる。この役に立たない僕を外の暗闇に追い出せ。そこで泣きわめいて歯ぎしりするだろう。』

[序] 2014年を振り返り

新年明けましておめでとうございます。2015年が始まりました。私たちは皆、一才年をとります。どのような日々を過ごすことになるのでしょうか。何しろ

牧師をはじめ高齢者の群れです。**若い人たちが増えていく教会**になるよう、皆で祈りを合わせて、積極的に活動していかなければなりません。そこで川越教会にとって大切な節目でとなる 2015 年を迎えるに当たって、牧師に示されたみ言葉をお取次ぎさせていただきます。

[1] 主人が僕に期待したこと

今日の聖書の箇所は、皆に親しまれている「**タラントンのたとえ**」です。或る人が長期間家を留守にすることになったので、僕 3 人を呼んで、それぞれの力に応じて、5 タラントン、2 タラントン、1 タラントンを預けました。かなりの日がたってから、主人が帰って来ました。

5 タラントン預かった者が商売して 5 タラントンを儲け、合計 10 タラントンを主人に差し出しました。2 タラントン預かった者もやはり 2 タラントン儲けて、4 タラントンを差し出しました。**主人は大変喜んで**、この二人に言いました。「**忠実な良い僕(しもべ)だ。よくやった**。お前は少しのものに忠実であったから、多くのものを管理させよう。**主人と一緒に喜んでくれ**」

1 タラントン預けられた者は、預かったお金を**失うことを恐れて**、穴を掘り地の中に隠しておきました。そして増えも減りもしなかった 1 タラントンを差し出しました。「**怠け者の悪い僕だ**」彼は厳しく叱られて、外の暗闇に追い出されてしまいました。主人は、預けたお金を**増やすこと**を期待していたのです。「埋めておくぐらいなら、銀行に預けておくべきだった。利息付で返してもらえたはずだ」タラントンを預かる、財産を管理するとは、それを一生懸命に運用して**増やすこと**なのでした。

タラントンとは当時の通貨の単位の一つです。労働者 1 日分の日当が 1 デナリオン。6000 デナリオンが 1 タラントンです。**労働者 6000 日分の賃金**です。今日の日当を仮に 7000 円としますと **4200 万円**。相当の金額です。テレビ等によく出演する人を**タレント**と言いますが、タラントンから生まれた言葉でしょう。なにしろ 1 タラントンでも 4200 万円なのですから、いつのまにか**才能のある人**を言う言葉になりました。

しかし主人は、3 人の僕に**それぞれの力** (25 : 15)、すなわち**能力に応じて**預けたのですから、才能そのものをタラントンと呼んでいるわけではないことが分かります。では主人が預けたタラントンのたとえで、イエスさまは、私たちに**何を預けた**と考えておられたのでしょうか。

[2] 主人の期待

主人は自分の**財産**を預けた。僕たちはそれで**商売**をして儲けたとありますから、預金通帳を預けたのでしょうか。或いは広い農場を思うように管理させて、収穫を上げて儲けよと命じたのかもしれませんが。5タラントン、2タラントン預かった者は、預かった財産を**積極的に活用**して倍に増やしました。

ところが1タラントン預かった者は、商売に失敗して預かったお金を失うことを恐れて、穴を掘って**地の中に埋めて**おきました。ですから増えも減りもしなかった1タラントンを差し出しました。夫に先立たれた婦人が居ました。商売しながら二人の子どもを育て上げました。二人はそれぞれに良い相手と結婚してくれました。ホッとしたとたんに脳溢血で倒れて6日目に亡くなりました。後に商売でつくった億を超す借金が残されていました。さあこれからもうひと働きして、借金をきれいにしようと考えて居たに違いありません。このように、商売は厳しいものです。1タラントンを土の中に埋めておいた**僕の気持ち**もよく分かります。

でも彼は「**怠け者の悪い僕だ**」と厳しく叱られて、外の暗闇に追い出されています。主人は預けたお金を**積極的に活用すること**を期待していたのです。それにしても5タラントンもの大金を預かった僕は、商売に失敗して預かったお金を失うことを恐れなかったのでしょうか。私だったら5タラントンの内の半分で商売して、半分は安全に銀行に預けておいたかも知れません。しかし彼は5タラントン全部を投資して5タラントン儲けたのです。彼は**失敗を恐れなかった**のです。積極的に稼げという**主人の心**をきちんと汲みとっていたのです。そしてその意向に従って商売すれば、たとえ**失敗しても**主人は許してくれると**信頼していた**のではないのでしょうか。

2タラントン預かった人も偉いですね。5タラントン預かった仲間の横で、何で自分は2タラントンなんだといじけたり、腐ったりしていません。「私の力は2タラントン。それでいい。**私は私でベストを尽くそう**」彼も全力を注いで商売しました。5タラントンを10タラントンに増やした仲間の横で、彼の出発点の5タラントンにも及ばない4タラントンを主人に差し出して、同じ言葉で褒められています。力が違っても**差別せず**同じに褒め、喜んでさらに期待してくれる**公平な主人の愛**に、満足しています。素晴らしいですね。結局主人が期待したのは、主人が信頼して託した**賜物を、積極的に活用して**主人の働きを上げようとする**生き方**だったのではないのでしょうか。

[3] 万事は益となる

札幌教会時代に一緒に教会に長く仕えた**盲人の兄弟**がいました。彼は盲人なるが故に**引っ込み思案**になりがちな自分を**1 タラントンの男**と言って、自戒していました。「**重い皮膚病**の人の証を聞きました。目が見えなくなり、**指先**も崩れてきて点字も読めない体になりました。そしたら**唇**で点字を読み始めたと言うのです。試しに僕もやってみましたが、よく読めませんでした。目がダメになった。指もダメになった。でも**まだ唇がある**——すごい生命力だナー。これしかない。もうだめだ——そこから**後向きの人生**が始まるのですね」

「この私という人間をお造りになった神さまを信じないで、1 タラントンの人のように、種を播きもしないで実を刈り取ろうとする神、与えもしないで取るだけの神と、私も今までにそうやってきたように思います。さっぱり恵まれない。与えられない。貧しいと。でも神さまは、**私にもちゃんと賜物を与えて下さっている**のですよね。私が**活用しようとしていない**のですね」——盲目のこの兄弟だけではありません。私たちも彼と同じ様に思って、授かったタラントンを**土に埋めてしまっている**ことがあるのではないのでしょうか。

またその兄弟はこうも言っていました。1 タラントン預かった僕が、商売に失敗して、「ご主人さま、一生懸命働いたのですが失敗して、大切なお金を全部失ってしまいました」と言ったら、「いやいや僕よ、**お前の失敗**は、お前に**多くのことを教えてくれた**ではないか。それはお金に代えられないものだよ。」と言って、励ましてくれたのではないのでしょうか、と。

パウロはこのように言っています。「神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、**万事が益となるように共に働く**ということ、**わたしたちは知っています**。」(ローマ 8 : 28)

神を愛する者たちとは、神に信頼を寄せ神から離れない信仰者です。ご計画に従って召された者——この私はキリスト教信仰とは全く縁のない家に生まれました。それが不思議な導きで聖書を手にし、教会に導かれ、信仰を持つようになりました。そして親も兄弟も導かれました。一方我が家の子どもたちは、牧師の子どもとして生まれ、教会の中で育ちました。これもまた、**人の思いを超えた神のご計画**に従って召されたとしか言いようがありません。

しかしいずれにしても、**万事が益となるように共に働く**——全てのことが私たちの**救いになる**ように神さまは、働き導いて下さるのです。5 タラントン、

2タラントンを僕に預けた主人とは、神さまのことです。この僕たちには、主人である神さまへの全幅の信頼があったので、万事が益となるように共に働くと信じて、危険や失敗を恐れずに積極的に働けたのです。

【結】 十字架をかかげる教会の使命

この「タラントンのたとえ」は、主イエスが十字架にかけられる数日前に弟子たちに語られたものです。妬みから主を十字架にかけようとした**ユダヤ教指導者**たち、自己保身から十字架刑執行を命じた**総督ピラト**、不和雷同する**群衆**、逃げ散って姿をくらます**弟子たち**。このような人間模様の渦巻く中で、自ら進んで**十字架**につけられ「**父よ、彼らをお赦してください**」と祈りつつ、すべての人の罪を贖う死を遂げられた**主イエス**。この御子イエス・キリストの十字架によって、ご自身の**愛を現された天の父なる神さま**。

主イエスが語られたこのたとえで、3人の僕たちにタラントンを預けた主人とは、言うまでもなく**神さま**です。ですから**主人が豊かに持っている財産**とは、十字架のイエスさまに現された**愛**です。神さまから託されたタラントンを、**命**とか**使命**とか**役割**、或いは**仕事**、**お金**等と受け取ることも大切でしょう。でも神さまが一番増やしてもらいたいと願って居られるものは、**愛**ではないでしょうか。この神さまの**愛を自分なりに懸命に増やそうとした僕**を、「忠実な僕だ、よくやった」と非常に喜ばれたでした。

ですから、このタラントンのたとえに続いて、あのマザーテレサを動かした言葉、「わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである」というたとえを、イエスさまは語られたのだと私は理解します。飢えている者に食べ物を与え、のどの渇いている者に飲ませ、宿を貸し、着るものを着せ、病人を見舞い、牢に入れられた人を訪ねること、その小さな業を惜しみなくすること、それが、**主人が僕たちに期待したこと**だったので。

私たちは**主の僕**です。神さまは私たち一人一人に、**十字架の愛**というタラントンを託しになりました。託されていない僕は居りません。私たちがそのタラントンを**増やすように**神さまは望んでおられます。小さい者の一人に愛の業を一つ、また一つとこつこつ行う歩みをして参りましょう。

そして、「忠実な良い僕だ。よくやった。お前は少しのものに忠実であったから、多くのものを管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ。」という**主の喜びの声の溢れる川越教会**になって参りましょう。「神を愛する者たちには、**万事が益**

となるように共に働く」という信仰に立って、愛の業の喜びが豊かに貯えられていく川越教会になっていきましょう。それが十字架を掲げるキリスト教会の使命です。

祈ります。

「天の父なる神さま。十字架のイエス・キリストを私たちの救い主としてお与え下さって有難うございます。あなたは主の十字架の愛のタラントンを、私たち一人一人にお預けになりました。そして続けて「わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである」とおっしゃいました。どうか私たちに、小さな者を大事にする愛を増し加えてください。そして「忠実な良い僕だ、よくやった」と貴方に喜んでいただく喜びに溢れる教会にしていくことができますように、お導きください。教会の礼拝を中心とした交わりが、主イエスさまの愛の注ぎを豊かに頂けるものとしていけるように、私たちをお導きください。2015年の教会の歩みを、御霊豊かに、祝福してくださいますように。主イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。　　アーメン